

ある日の我が家

石橋いづみ

我が家は、夫婦と子供たちの五人家族である。子供と言っても、もう三人とも社会人になった。そのうち二人は家を出ているので、いつもは三人暮らしである。土、日には、二人は大抵帰ってくる。主には洗濯物があり、美味しい夕食が狙いという理由からではある。子供とは言えない子供たちは、三人そろると大騒ぎになる。まず、下の子が帰ってきた上の子たちの荷物を点検する。何かお土産があるかどうかをチェックするのである。まず、そこでもめるのだ。大抵二人は休日用のおやつを買ってくるので、そこで取り合いになるのだ。上の子供たちは、家族用に、それぞれの食べそうなものを考えて買ってくるのだが、それですら奪い合いになる。私も、もちろん自分のものは確保する。だから、どうしようもなくなる。

食事も、五人もいればその分だけ食べたいものが違ってくる。そんな時、ある物で済ませられればいいのだが、大抵は買い物に行くことになる。食べてしまっただけ、お腹がいっぱいになれば大人しくなる。要はお腹が空いている事が、もめる原因なのだ。だから、なおさら情けなくなる。まあ、健康である証拠ではあるが。

しかし、次は食後のデザートのことでもまた、もめるのだ。この時も夫は黙ってみているのだが、私はまた自分の分を確保する。だから、なかなか収まらない。四人とも分け合うという考えを持ってないらしい。良く言えば、それが我が家のコミュニケーションの取り方なのかもしれない。皆叫んだり笑ったりして、もめているのだが、もう大人でもあるから、それらしい対応ももちろんできる。最終的には、食べながら分け合っている。

ただ、もめている私に対しては子供たちの視線は冷たい。いつもの事なのだが、上の子には叱られる。夫にも告げ口されて注意をされる。でも、私は家族でのこうしたやりとりが、とても好きだ。夫も私も、もう両親はいない。夫の兄弟は皆、遠くにいるので、子供たちとは関わりがない。私には兄妹もいないので、いとことも関わることはない。子供たちが親戚と関わって来られなかった事を、私はとても寂しく思ってた。それで、子供たちとの、こうした関わりが心の癒しになっているのだと思う。

その子供たちが、先日いつものように、おやつを食べながらテレビを観ていた。そこでニュースが始まり、議員の不正についての話が流れてきた。それを観ていた中の子が、それが当たり前に夫に質問をし始めた。皆、社会の出来事で聞きたいことがあると夫に訊ねるのが当たり前になってきている。なにか疑問に思った事、腹が立った事があると、皆で納得

がいくまで話し込んでいるのだ。中の子は作業所で働いているので、疑問に思うことや腹が立つことも多く、こうして話し込むことが多い。下の子も一緒に観ていることが多く、話しに入っていく。上の子はネットなどで色々な事を観ていて考えている。下の子はそれらの話を熱心に聞いている。現実にはニュースや新聞で見ると、話し込む事の方が現実味がある場合もある。のんきになっている私などは、よく解らないこともある。しかし、このように今置かれている社会の事を、自分たちの事として自分たちの目を通して考えているのだと思うと、彼らのたくましさを感じるのだ。今のこの生きにくい社会のなかで、懸命に自分たちの純粋な目を通して生きていく子たちに、その思いを大切に持ってほしい。そうやって、社会の中で現実に触れていく子供たちに嘘をつかないで欲しい。人を傷つけないで欲しい。そして、社会に出たばかりの人たち皆に正しい背中を見せておいて欲しい。そう思う。

この春、下の子も社会人になる。高校を出たばかりなので親は不安である。それでも、上の子や夫と社会の話に入っていくようになった。親に意見もしてくる。ちゃんと筋の通った話をしてくる。私を追い越す勢いで話してくる。こんな風に育ってきてくれたのだろうか。そうであると、なおさら社会に出ていく事が私を不安にさせる。上の子たち二人は職場で色々と苦労をしている。今は、このように危うい生活をしている社会で働くことは、やはり難しいと思う。中小企業は今回のコロナ過の中で、つぶれている所が多い。大きい会社へは子供たちを行かせたくない。大きいだけでブラックな所が多いはずがない。子供たちそれぞれが自分たちの夢に向かい、希望を持てるところで、働いてほしい。

時々、「仕事に行きたくない」という時があるが、その子たちの背中をたたき送りだす方も、行かせるからにはやりがいを持つてゑる気持ちで働きに行つてほしい。そして、休みの時にはうんとゴロゴロさせてやりたい。今、春休みで毎日遊んでいる下の子に、研修までのんびり過ごしておいて欲しい。